

茨城大学学報

第309号

平成25年6月～平成25年7月



オープンキャンパス2013の様子（学生生活相談コーナー）

INDEX

- ◆ 国際交流合宿研修を開催
- ◆ 教育学部附属小学校で教育研究発表会を開催
- ◆ 平成24年度推奨授業表彰式を挙行
- ◆ 学生懇談会を開催
- ◆ 茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会（第7回）を開催
- ◆ 人文学部と常陸太田市が地域連携に関する協定を締結
- ◆ オープンキャンパス（水戸）に7,115名が参加
- ◆ 農医連携事業キックオフシンポジウム・3大学交流セミナーを開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 国際交流合宿研修を開催

留学生センターでは、平成 25 年 6 月 1 日（土）・2 日（日）に国立磐梯青少年交流の家で国際交流合宿研修を開催しました。外国人学生（中国、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、アメリカ、ウガンダ）40 名と日本人学生 28 名、引率教職員 4 名、計 72 名が研修に参加しました。

この研修は、国籍、言語、学部など異なる背景を持つ学生が一堂に会して協働活動を行うことによって、異文化に対する理解を促進し、異文化間コミュニケーションスキルを向上させること、隣県である福島県を訪れ、福島県会津地方の豊かな自然と文化に肌で触れる機会を持つことを目的としています。また、国際交流が学生主体の交流となるよう、学生スタッフが研修内容の企画段階から参加しました。

初日は、磐梯青少年交流の家で七宝焼作成やスポーツ活動（卓球・バドミントン・バレーボール）、グループミーティングを行い、夜にはキャンプファイヤーを囲んで歌やフォークダンス、ゲームで親睦を深めました。

2 日目は、磐梯山の豊かな自然のなかで野外炊飯を行い、午後には会津藩藩校である日新館で会津地方の歴史を学び、茶道または座禅を体験することができました。

国籍・文化を超えて、相互理解と絆を深めることのできた充実した 2 日間となりました。



留学生がハラールカレーの作り方を伝授（野外炊飯）



和尚さんの講話を熱心に聴く留学生たち

◆ 教育学部附属小学校で教育研究発表会を開催

平成 25 年 6 月 7 日（金）、教育学部附属小学校で「仲間に学ぶ子どもを育てる」をテーマに教育研究発表会が行われ、公開授業 4 本、研究授業 10 本が提案されました。発表会には、県内外から合計 346 名が参加しました。

附属小学校は東日本大震災で大被害を受け、体育館・音楽室等を教室に利用したため、教育研究発表会を開催できなかった時期がありましたが、今回は参加者数が震災前を越え、完全復旧したこと示す発表会となりました。

教育研究発表会では、まず石川豊研究主任が研究基調を提案した後、桔梗谷美代子教諭（音楽）が仲間に学びながら音楽づくりをする実践発表を行いました。自らが演奏するパートを色紙で表現し、その並べ方をみんなで工夫することで（写真 1）、演奏がにぎやかになったり（写真 2）、徐々にさみしくなったりすることを体験するなど、色紙の並べ方から音楽の繰り返し構造に気づく実践発表となりました。本発表では色紙を使うことで音楽が見える形にし、色紙を動かすことで音楽の組み立てを考えられるようにする工夫が優れていました。

3 年生の理科を担当する栗原裕弥教諭の研究授業「こん虫をそだてよう」では、生き物に目を向けるために、キャベツの苗を一人一鉢育て、そこに付いたアオムシを観察しました。当日の授業では、「自分の」アオムシをスケッチした絵をスクリーンに映し出して、アオムシがどんな様子なのかを話し合いました。

子どもたちが自分一人だけで描いたスケッチでは、アオムシの色や形があいまいで、足の数も 15 本という意見や 17 本という意見があり、個人差が出た結果となりました。しかし、体のしましまや色、足のついている場所、足の先の形などについて多くの意見を交わした後で、再びアオムシを観察し（写真 3）、スケッチをしました（写真 4：意見交換後のスケッチ）。それによって、スケッチは詳細なものとなり、「多くの仲間の視点を学ぶことによって、観察力が伸びること」がわかる研究授業となりました。

今回の教育研究発表会で提案された授業は、全て子どもたちが仲間の考えを聞き、議論して考える授業となり、その重要性が再確認されるものとなりました。



写真1：音楽づくり
演奏パートを並べる児童

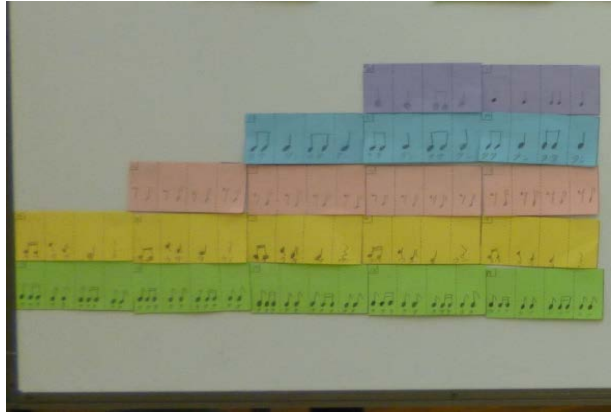


写真2：音楽づくり
にぎやかになる演奏



写真3：アオムシを探す児童

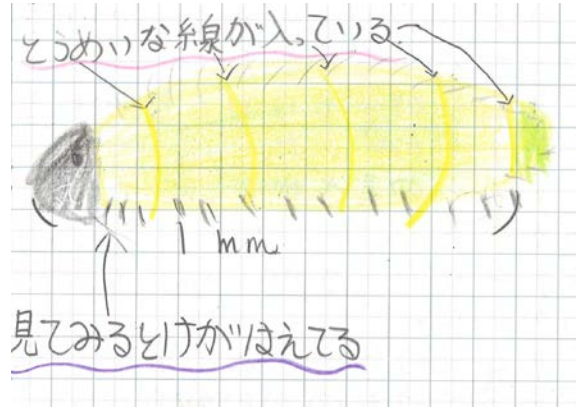


写真4：意見交換後のスケッチ
目、尻、体のしわ、毛の長さが書き込まれている

◆ 平成24年度推奨授業表彰式を挙

大学教育センターでは、授業の改善及び教育力の向上を目的として推奨授業の選定を行っています。この推奨授業表彰制度は2001年度に制定され、年度終了毎に教養科目の中から優れた取組みをし、成果を上げた授業を選定しています。選定の対象となるのは、専任教員が担当する正課授業で、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」などを基に人文、社会、自然、外国語（英語、未修外国語）、健康・スポーツ、情報科目の各代表者を中心にして教育上の努力や工夫、優れた教育技術や到達度などの観点から評価が行われています。

平成24年度の授業からは、森聖治先生（理学部）ほか4名の教員による「化学実験基礎」および黒田久雄先生（農学部）「農業と環境」の2件が選ばれました。平成24年7月11日（木）、受賞者に対して表彰式が執り行われ、池田幸雄学長より表彰状が授与されました。池田学長からは「学生の勉学意欲の向上のため、今後も学生の目線に立った授業を行い、みなさんの模範となっていたきたい」との言葉がありました。

表彰式終了後は、受賞者らは教養科目授業にかける意気込み、工夫、学生の反応などを中心に学長と懇談をしました。表彰を受けた先生方の授業は今年度公開され、授業の質の改善に生かされます。



左より、佐藤和夫大学教育センター長、黒田久雄農学部教授、池田幸雄学長、大橋朗准教授、勝本真大学教育センター副センター長

◆ 学生懇談会を開催

大学教育センターでは、平成 25 年 7 月 17 日（水）に学生懇談会を開催しました。これは、学生から率直な意見を徴し、学習環境の改善及び更なる充実を図るため、学部・大学院ともに初年次生を対象に学習支援と生活支援、学資支援に関する情報交換及び意見交換を行うものです。この懇談会を本学では平成 24 年度から実施しており、今回が 2 回目の実施となり、前回の学生懇談会において「先輩の話を知りたい」という学生からの意見があったことを踏まえて、今回は各学部・研究科 1 年次生の他に 2 年次以上の学生にも参加してもらい、総勢 21 名の学生が参加しました。また、前回の学生懇談会では論点が曖昧であったことを改善するため、今回の学生懇談会ではテーマを明確にすると同時に、300 人を超える学生に対し設定テーマに沿った事前アンケートを実施し、その結果を踏まえて懇談会において学生の意見を聞くという試みを行いました。

懇談会では「初年次からより多く専門科目を学びたい」という意見があり、併せて教養科目から専門科目への接続を意識したカリキュラム作りを要望する等、教養教育の在り方について学生から発言がありました。また、大学で設定している学習相談体制については、「もっと積極的に活用したい」「周知が十分に行われていないのではないか」といった率直な意見が出されました。他にも「TOEIC などの外部検定試験が授業の成績評価に導入されれば受講するモチベーションを維持できるのでは」「予習・復習のポイントが示されないため学習意欲が湧かないことに繋がっているのでは」といった提言や意見も学生から積極的に発言されました。

懇談会後に実施された情報交換会においては、本学在学時に日本学生支援機構の認定を受け奨学金の返還免除の対象となった職員による経験談などが紹介され、参加学生は熱心に耳を傾けていました。

懇談会の全体統括を担当した勝本真・副センター長は、「様々な意見が活発に交わされ、大変有意義な懇談会となった。皆さんからの要望をもとに、大学教育センターとして教養教育の在り方を見直すことはもちろん、学生の視点に立った教育の見直しや大学設備の充実等を検討する契機としたい」と懇談会を締めくくりました。



A グループ懇談会の様子



B グループ懇談会の様子



全体懇談会の様子

◆ 茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会（第7回）を開催

平成25年7月18日（木）、茨城大学事務局会議室において「第7回茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会」が開催されました。

この懇談会は、茨城大学同窓会連合会の事業の1つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として、毎年1回開催しています。

同窓会連合会関係者10名及び大学役員等15名の出席のもと、臼井敏雄会長の開催挨拶に始まり、池田幸雄学長から大学の現況を踏まえた挨拶があり、田代尚弘理事・副学長からは最近の大学教育や昨今の学生の動向などについて報告がありました。

また、各学部同窓会からその近況等とあわせて、積極的な支援を図るための同窓会事務局の体制強化や具体的な支援方法の模索など、活動の様子について報告があり、その支援活動に際しての本学への協力要請がありました。

本学からは各支援への謝辞が述べられ、連合会と大学が相互に協力して連携を強化することで、茨城大学の発展に資することが確認されました。



懇談会の様子



懇談会終了後の記念撮影

<出席者>

茨城大学		茨城大学同窓会連合会	
学長	池田 幸雄	会 長	臼井 敏雄（多賀工業会顧問）
理事・副学長（教育）	田代 尚弘	副会長	鈴木 章史（文理・人文学部同窓会副会長）
理事（事業）	影山 俊男		〔土田惣一（同会長） 代理〕
監事	矢口 一美	//	高瀬 一男（教育学部同窓会副会長）
副学長（大学改革等）	佐々木寛司		〔堀川賢壽（同会長） 代理〕
人文学部長	伏見厚次郎	//	久保田益充（理学部同窓会会長）
教育学部長	尾崎 久記	代表幹事	大貫 仁（多賀工業会理事，幹事長）
理学部長	折山 剛	幹 事	糟谷 政和（文理・人文学部同窓会幹事長）
工学部長	米倉 達広	//	佐藤 瑛一（教育学部同窓会幹事長）
農学部長	太田 寛行	//	山村 靖夫（理学部同窓会常任幹事）
総務部長	相原 重昭	//	栗原 和美（多賀工業会理事）
総務課長	塚田 昌毅	会計監事	佐久間 隆（理学部同窓会常任理事）
総務課課長補佐	桑澤 芳香		
総務課総務係長	三浦 範昭		
総務課総務係員	奈良橋敏郎		

◆ 人文学部と常陸太田市が地域連携に関する協定を締結

人文学部と常陸太田市は、様々な行政課題を抱える地域への知識・技術及び人材の提供やPBL（問題解決型学習）等を通じた人材の育成を図るために、平成25年7月24日（水）に人文学部において地域連携に関する協定を結びました。

今回の地域連携事業は（1）地域特性を生かした産業の振興とまちづくりの推進、（2）地域の発展に寄与する人材の育成、（3）人的交流の促進による地域コミュニティの活性化、（4）地域の政策課題に関する共同研究の推進の4つの事項を中心として活動を展開していくことになりました。

協定の調印式には関係者9名が出席し、茨城大学の伏見厚次郎人文学部長と常陸太田市の大久保太一市長が協定書に署名しました。伏見人文学部長は「これまでの地域連携活動は教員個人の活動が多かったが、これからは組織的に対応し、継続的な活動にしていきたい。そして、学生と教員が地域社会の現場で地域課題を考える機会を増やしていきたい。」と意気込みを述べました。

人文学部はすでに常陸大宮市、大洗町及び茨城町と地域連携に関する協定を締結し、活動を行っており、その経験とノウハウを活用し常陸太田市との地域連携活動に組織的かつ継続的に取り組んでいきたいと考えています。



大久保太一常陸太田市長(左)と伏見厚次郎茨城大学人文学部長(右)

◆ オープンキャンパス（水戸）に7,115名が参加

本学では、平成25年7月27日（土）に平成25年度オープンキャンパス（水戸）を開催しました。当日は曇り空の中、途中から雷雨にも見舞われましたが、開場と同時に高校生や保護者が続々と来場し、7,115名の参加者が来場しました。

正門前では、教職員と学生が、笑顔で大勢の参加者を出迎えました。参加者は、学部説明会などを熱心に聞き、模擬授業を聴講した高校生は、実際の大学での授業を直に体感できたものと思われます。

会場内の各種相談や入試相談コーナー、過去問題閲覧・配布コーナー、保護者説明会などどこも盛況で、特に在学生による相談コーナーや学生ガイドによる個性あるキャンパスツアーが人気となりました。また、チアリーディングや管弦楽団などのサークルパフォーマンスがオープンキャンパスに華を添えました。今年のオープンキャンパスでは、学生の積極的な参加によるものが好評で、オープンキャンパスを終日盛り上げました。

当日は、参加者の方の熱気が学内を満たした一日となりました。



続々と入場する来場者の方々



教育学部在学生の説明
に耳を傾ける高校生

◆ 農医連携事業キックオフシンポジウム・3大学交流セミナーを開催

農学部は平成25年7月30日（火）、隣接する茨城県立医療大学、東京医科大学茨城医療センターと共に、茨城大学阿見キャンパスにおいて「農医連携事業キックオフシンポジウム・3大学交流セミナー」を開催しました。

事業のプロジェクト名は「心身の健康を維持・改善する農医連携研究の推進」であり、農学部の豊田淳准教授が代表を務め、文部科学省特別経費「大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実」を平成25年度から3年間受けることとなります。

シンポジウムでは、はじめに茨城大学の池田幸雄学長が「異分野の3大学が切磋琢磨し、大学の機能を高め、素晴らしい成果を出してほしい。3大学の連携についても地域に貢献しているという成果を明らかにしてほしい。」と挨拶し、次に豊田准教授が、事業の目的、研究の内容及び枠組み、事業達成による波及効果等について説明しました。

また、人間文化研究機構総合地球環境学研究所の門司和彦教授から「生態系・生活・農・食・健康—熱帯アジアと日本の比較から—」について、東京農工大学大学院国際環境農学部門の藤井義晴教授から「ハッシュウマメについて—アレロパシーと機能性成分について—」の特別講演がありました。

続いて、茨城県立医療大学医科学センターの佐々木誠一教授から「呼吸の神経科学」について、東京医科大学茨城医療センター共同研究センターの宮崎照雄講師から「生体不可欠栄養素タウリンの組織学的分布特徴と肝保護作用」について、農学部の井上栄一准教授からは「茨城県の多様な農産物資源を利用した農と健康をつなぐ研究」についてそれぞれ研究が紹介されました。

今回のキックオフシンポジウムは、恒例の3大学交流セミナーとあわせて開催し、3大学の教職員及び近隣の研究機関の職員等を含め約100名が参加しました。



挨拶する池田茨城大学長



熱心に聞き入る参加者